

2024年3月期 | 第110期

期末決算説明会



2024年5月15日
フタバ産業株式会社



FUTABA



1. 2024年3月期 決算概況

2. 2025年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

4. 中期経営計画の進捗状況等

単位：百万円

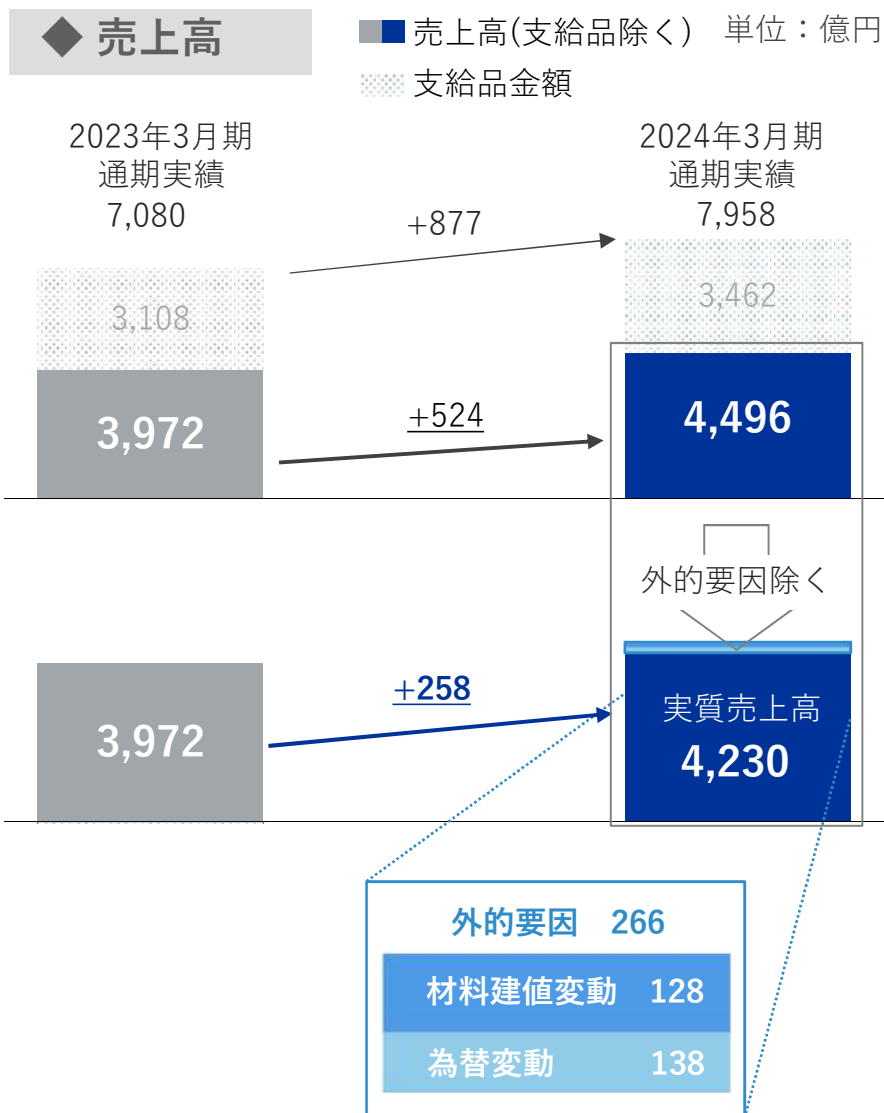
	2024年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高 [支給品込み]	* 795,802	708,072	+87,730	+12.4%
[支給品除く]	* 449,664	397,225	+52,438	+13.2%
営業利益	* 19,213 (2.4%) (4.3%)	7,681 (1.1%) (1.9%)	+11,531	+150.1%
経常利益	* 18,489 (2.3%) (4.1%)	7,768 (1.1%) (2.0%)	+10,721	+138.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	* 12,831 (1.6%) (2.9%)	10,576 (1.5%) (2.7%)	+2,254	+21.3%

() 内は売上高比率を表示 上段：支給品込み 下段：支給品除く

為替レート (1ドル)	144.6 円	135.5 円	9.2円の円安
----------------	---------	---------	---------

*: 過去最高

決算要約 売上高の分解: 支給品/材料建値/為替変動影響



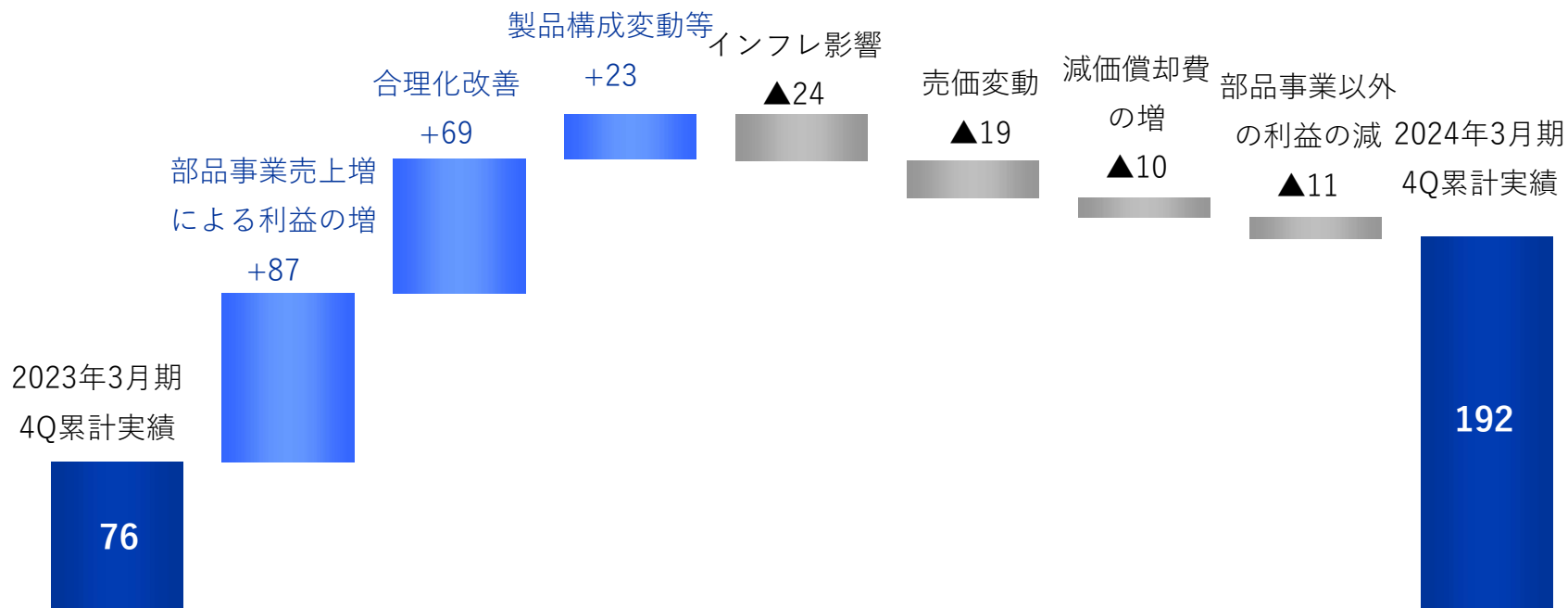
- 売上高は支給品込みで +877億円の増収
- 支給品除く売上高は、+524億円の増収
- 材料建値変動、為替変動影響を除くと
実質売上高は、+258億円 (+6.5%)の増収

- 支給品とは
得意先から有償支給される触媒等の部品
支給品を含む製品の売価には、支給品額が含まれており、利益影響はない
- 材料建値変動とは
市況の変動により、材料の仕入れ単価と売価の内材料費分が同額変動すること。
売上と原価が同額変動するので、利益影響はない
- 為替変動影響とは
海外子会社の財務数値を円換算する際、
前期と当期の為替レートの差分 売上等が変動すること

営業利益の増減分析

営業利益の増減 **+115億円** (76億円 → 192億円) 単位：億円

■ 増益要因
■ 減益要因



日本	30	+65	+28	+8	▲ 11	▲ 3	▲ 7	▲ 13	98	+67
北米	▲7	+34	+23	+1	▲ 6	▲ 7	0	▲ 3	35	+42
欧州	10	+11	+ 3	+4	▲ 2	▲ 3	▲ 2	0	21	+11
中国	26	▲23	+14	+9	▲ 4	▲ 6	▲ 1	+7	22	▲ 4
アジア	15	0	+1	+1	▲ 1	0	0	▲ 2	14	▲ 1
	<u>76</u>								<u>192</u>	<u>+115</u>

1. 2024年3月期 決算概況

2. 2025年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

4. 中期経営計画の進捗状況等

通期業績予想

単位：億円

	2025年3月期 業績予想	2024年3月期 通期実績	増減	増減率
売上高 [支給品込み]	7,400	7,958	▲558	▲7.0%
[支給品除く]	4,350	4,496	▲146	▲3.3%
営業利益	160 (2.2%) (3.7%)	192 (2.4%) (4.3%)	▲32	▲16.7%
経常利益	150 (2.0%) (3.4%)	184 (2.3%) (4.1%)	▲34	▲18.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	120 (1.6%) (2.8%)	128 (1.6%) (2.9%)	▲8	▲6.5%
為替レート (1ドル)	140.0 円	144.6 円		

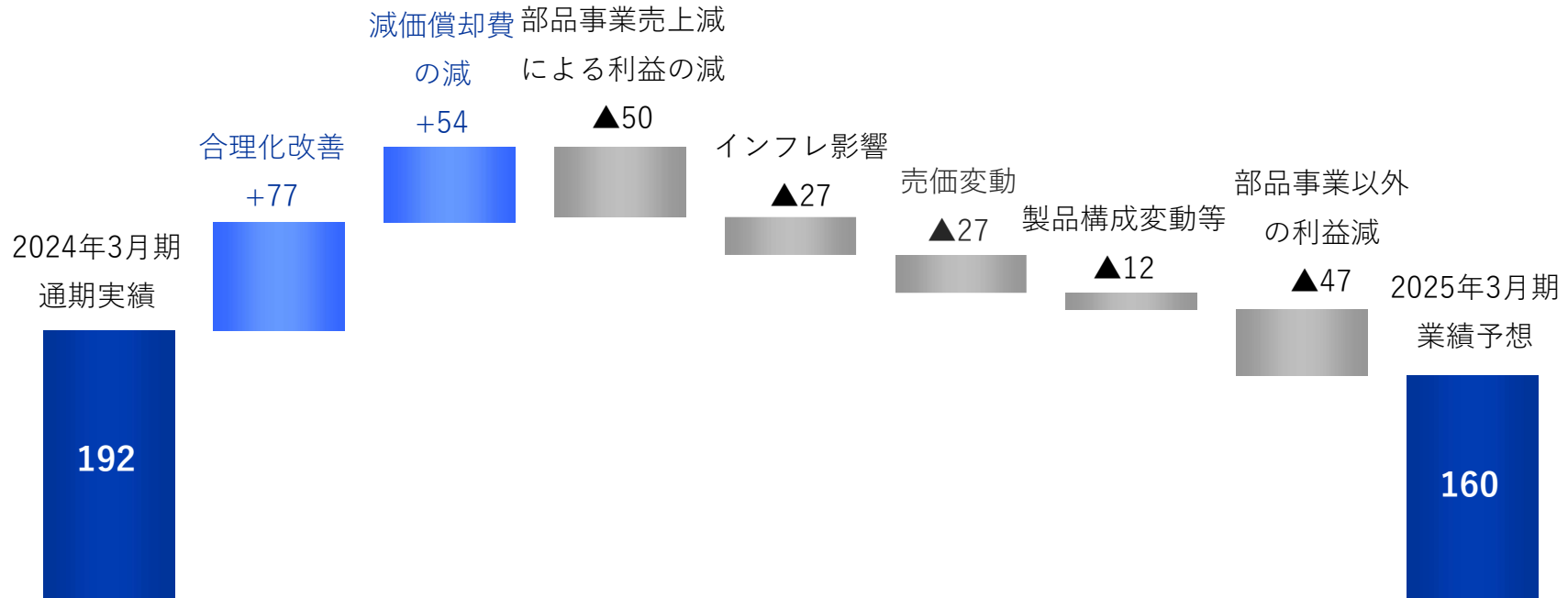
() 内は売上高比率を表示 上段：支給品込み 下段：支給品除く

営業利益の増減分析

営業利益の増減 **▲32億円** (192億円 → 160億円)

単位：億円

■ 増益要因
■ 減益要因



	2024年3月期 通期実績	増益要因	減益要因	増益要因	減益要因	増益要因	減益要因	増益要因	減益要因	2025年3月期 業績予想	増減
日本	98	+17	+33	▲7	▲12	▲10	▲4	▲27		88	▲10
北米	35	+28	+11	▲5	▲5	▲5	▲15	▲3		41	+6
欧州	21	+6	+3	▲18	▲5	▲2	▲2	▲1		2	▲19
中国	22	+22	+9	▲20	▲3	▲10	+10	▲17		13	▲9
アジア	14	+4	0	0	▲2	0	▲1	+1		16	+2
	192									160	▲32

1. 2024年3月期 決算概況

2. 2025年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

4. 中期経営計画の進捗状況等

セグメント別売上高と営業利益 支給品込み

単位：百万円

		2024年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減	増減率
日本	売上高	365,859	305,348	+60,511	+19.8%
	営業利益	9,800 (2.7%)	3,056 (1.0%)	+6,743	+220.6%
北米	売上高	222,877	172,532	+50,344	+29.2%
	営業利益	3,489 (1.6%)	▲739 (▲0.4%)	+4,229	—
欧州	売上高	74,480	68,331	+6,149	+9.0%
	営業利益	2,075 (2.8%)	975 (1.4%)	+1,099	+112.7%
中国	売上高	83,299	102,281	▲18,981	▲18.6%
	営業利益	2,216 (2.7%)	2,626 (2.6%)	▲410	▲15.6%
アジア	売上高	58,454	70,238	▲11,783	▲16.8%
	営業利益	1,437 (2.5%)	1,502 (2.1%)	▲64	▲4.3%
連結調整	売上高	▲9,168	▲10,659	+1,490	
	営業利益	193	259	▲66	
合計	売上高	795,802	708,072	+87,730	+12.4%
	営業利益	19,213 (2.4%)	7,681 (1.1%)	+11,531	+150.1%

() 内は売上高比率を表示

※中国 当期：2023/4～2024/3 前期：2022/1～2022/12

セグメント別売上高と営業利益 支給品除く

単位：百万円

		2024年3月期 通期実績	2023年3月期 通期実績	増減	増減率
日本	売上高 [支給品除く]	225,558	191,772	+33,786	+17.6%
	営業利益	9,800 (4.3%)	3,056 (1.6%)	+6,743	+220.6%
北米	売上高 [支給品除く]	111,191	94,000	+17,191	+18.3%
	営業利益	3,489 (3.1%)	▲739 (▲0.8%)	+4,229	—
欧州	売上高 [支給品除く]	41,219	33,263	+7,955	+23.9%
	営業利益	2,075 (5.0%)	975 (2.9%)	+1,099	+112.7%
中国	売上高 [支給品除く]	64,177	72,640	▲8,463	▲11.7%
	営業利益	2,216 (3.5%)	2,626 (3.6%)	▲410	▲15.6%
アジア	売上高 [支給品除く]	16,686	16,208	+477	+2.9%
	営業利益	1,437 (8.6%)	1,502 (9.3%)	▲64	▲4.3%
連結調整	売上高	▲9,168	▲10,659	+1,490	
	営業利益	193	259	▲66	
合計	売上高 [支給品除く]	449,664	397,225	+52,438	+13.2%
	営業利益	19,213 (4.3%)	7,681 (1.9%)	+11,531	+150.1%

() 内は売上高比率を表示

※中国 当期：2023/4～2024/3 前期：2022/1～2022/12

得意先別売上高

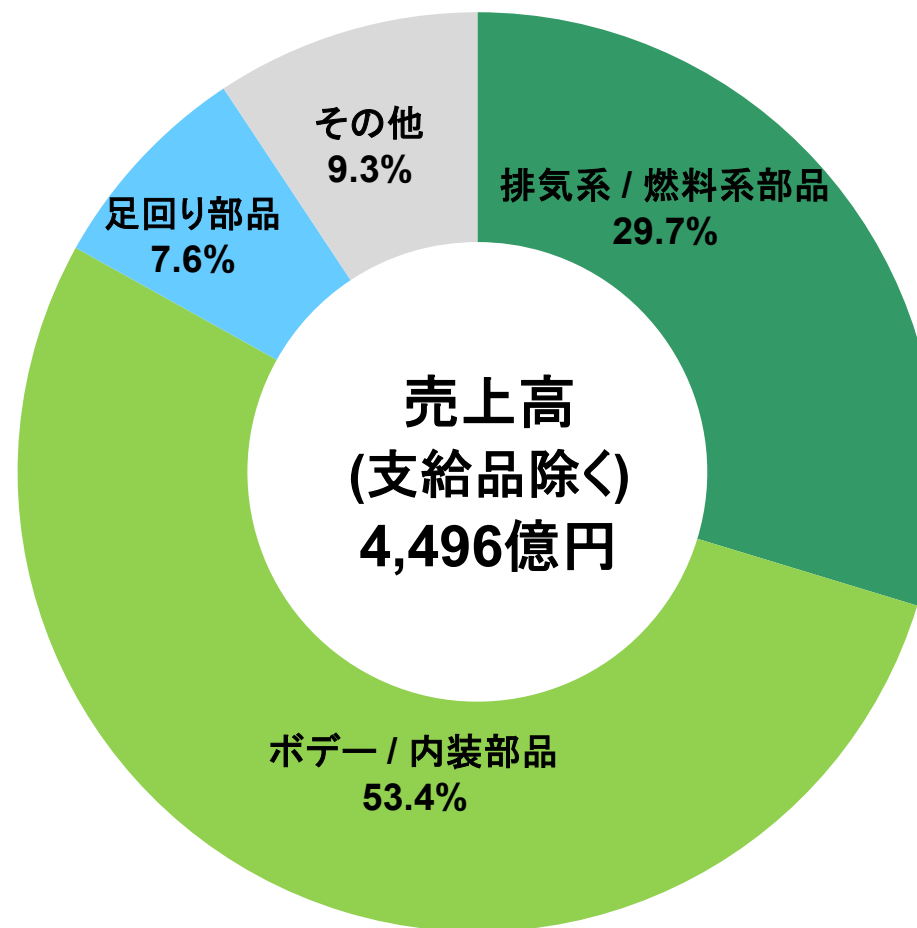
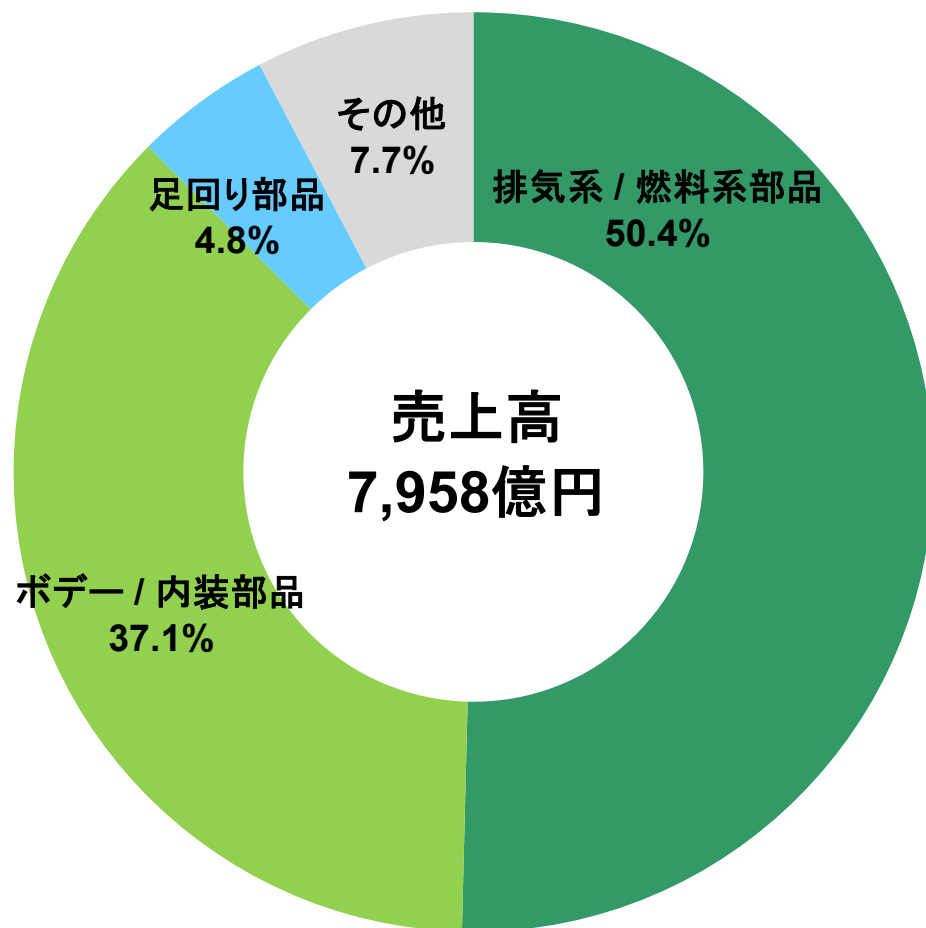
12

() 内は売上高比率 単位：億円

支給品込み	2024年3月期 通期実績		2023年3月期 通期実績		増減	増減率
※1トヨタグループ	6,458	(81.2%)	5,448	(76.9%)	+1,010	+18.5%
スズキ	682	(8.6%)	738	(10.4%)	▲56	▲7.6%
三菱自動車	223	(2.8%)	243	(3.4%)	▲19	▲8.1%
本田技研	96	(1.2%)	101	(1.4%)	▲5	▲5.0%
※2日産グループ	95	(1.2%)	78	(1.1%)	+17	21.7%
その他	401	(5.0%)	470	(6.8%)	▲68	▲14.3%
合計	7,958	(100.0%)	7,080	(100.0%)	+877	12.4%
支給品除く						
※1トヨタグループ	3,756	(83.5%)	3,218	(81.0%)	+537	+16.7%
スズキ	228	(5.1%)	205	(5.2%)	+23	+11.3%
三菱自動車	104	(2.3%)	109	(2.8%)	▲5	▲4.9%
本田技研	69	(1.6%)	72	(1.8%)	▲2	▲3.2%
※2日産グループ	71	(1.6%)	58	(1.5%)	+13	+23.4%
その他	265	(5.9%)	308	(7.7%)	▲42	▲13.8%
合計	4,496	(100.0%)	3,972	(100.0%)	+524	+13.2%

※1 トヨタグループには、ダイハツ、日野自動車等を含む

※2 日産グループには、日産車体を含む



支給品込みと支給品除きの売上構成比率を比較すると

排気系/燃料系部品 50.4%→29.7% (▲20.7%)

ボデー/内装部品 37.1%→53.4% (+16.3%)

1. 2024年3月期 決算概況

2. 2025年3月期 通期業績予想

3. 参考情報

4. 中期経営計画の進捗状況等

財務体質の健全化

企業競争力・体力の強化

リスクと機会

稼ぐ力を強化し、
フリー・キャッシュ・フローの増加を図る

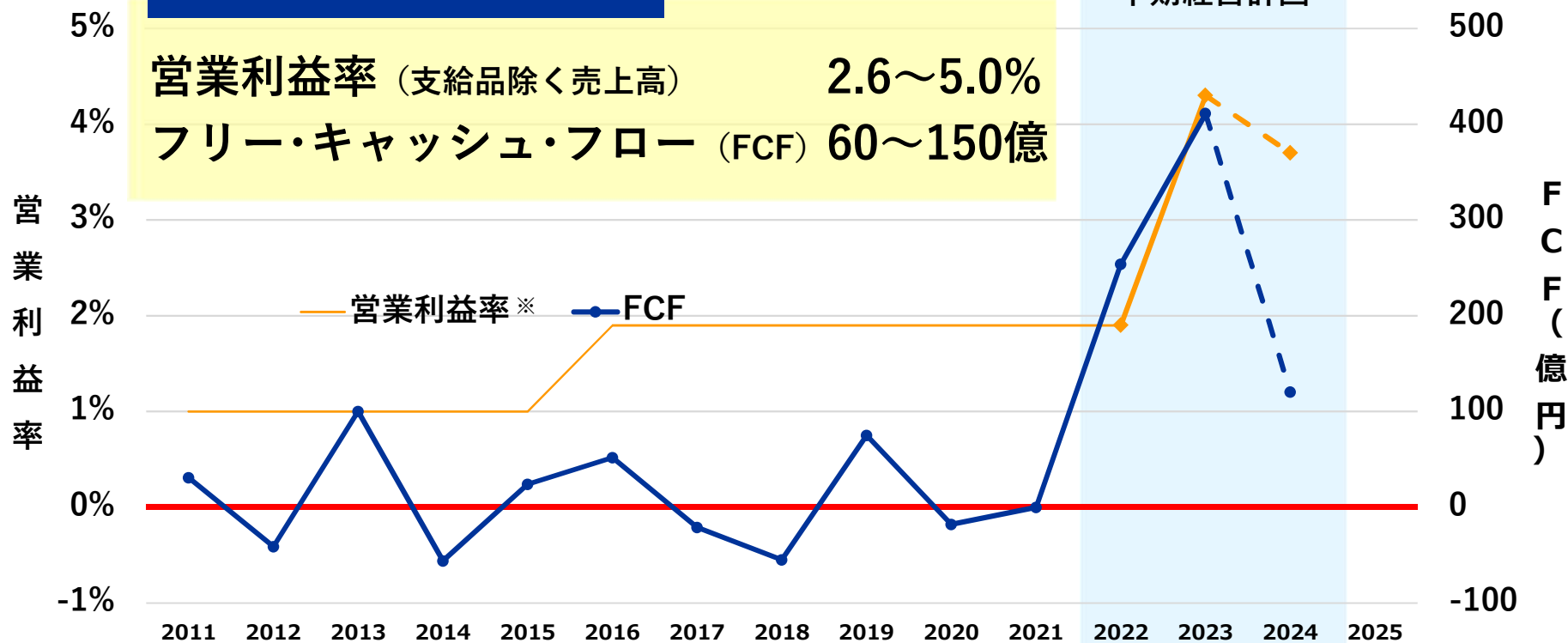
< 使途 >

- ①株主還元
- ②有利子負債返済
- ③成長投資

2022~24年度 目標

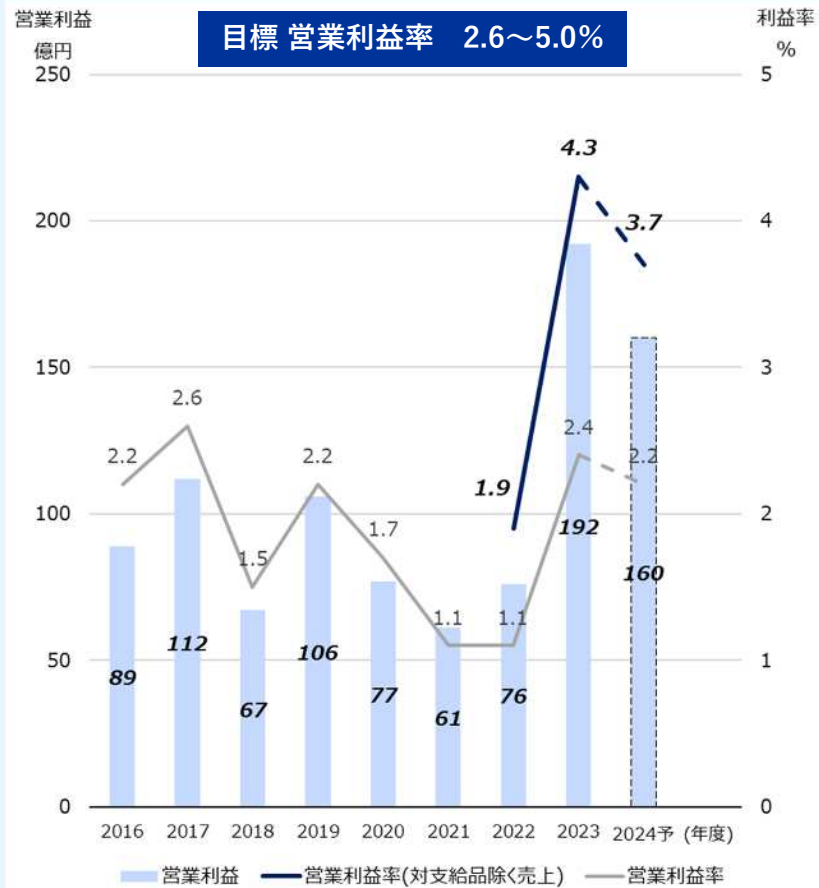
営業利益率 (支給品除く売上高) 2.6~5.0%
フリー・キャッシュ・フロー (FCF) 60~150億

中期経営計画



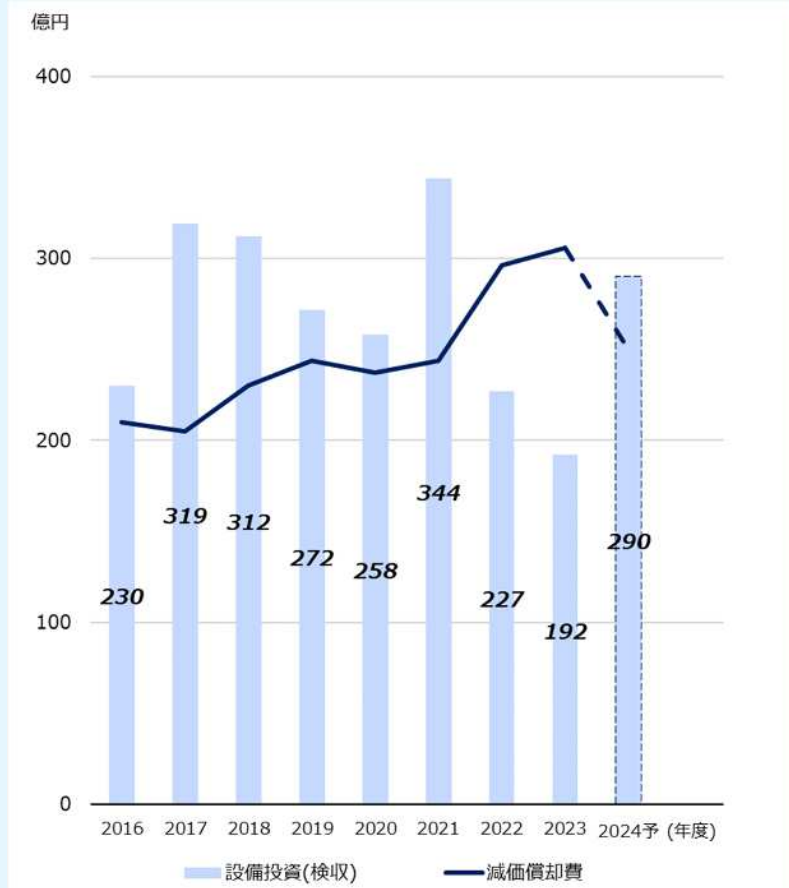
※ 21年度までは支給品込み

営業利益率



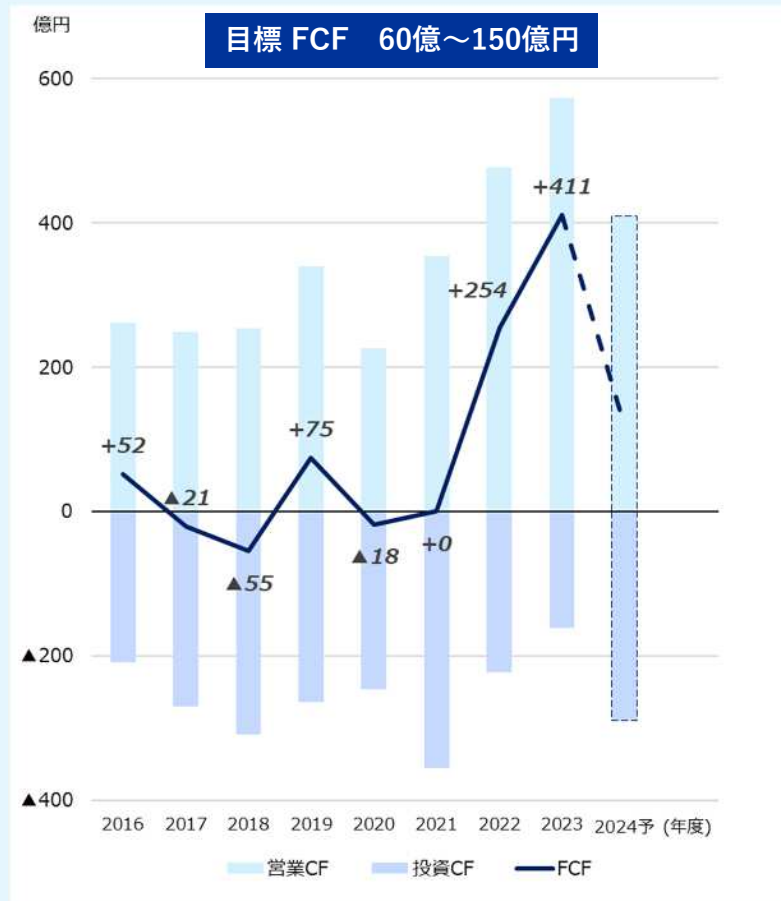
損益分岐点売上高を下げる活動の継続
変動費と固定費の両面から効率を上げる

設備投資の状況



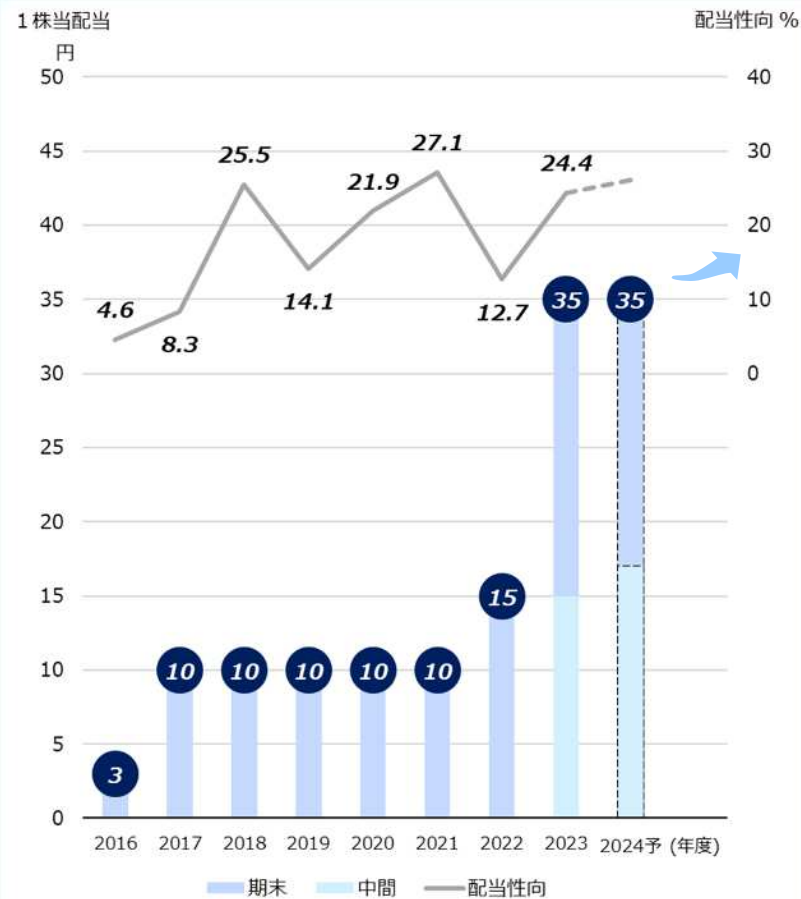
フリー・キャッシュ・フロー目標達成のため、
投資額上限を250~300億円程度と設定
設備投資額を削減

フリー・キャッシュ・フロー



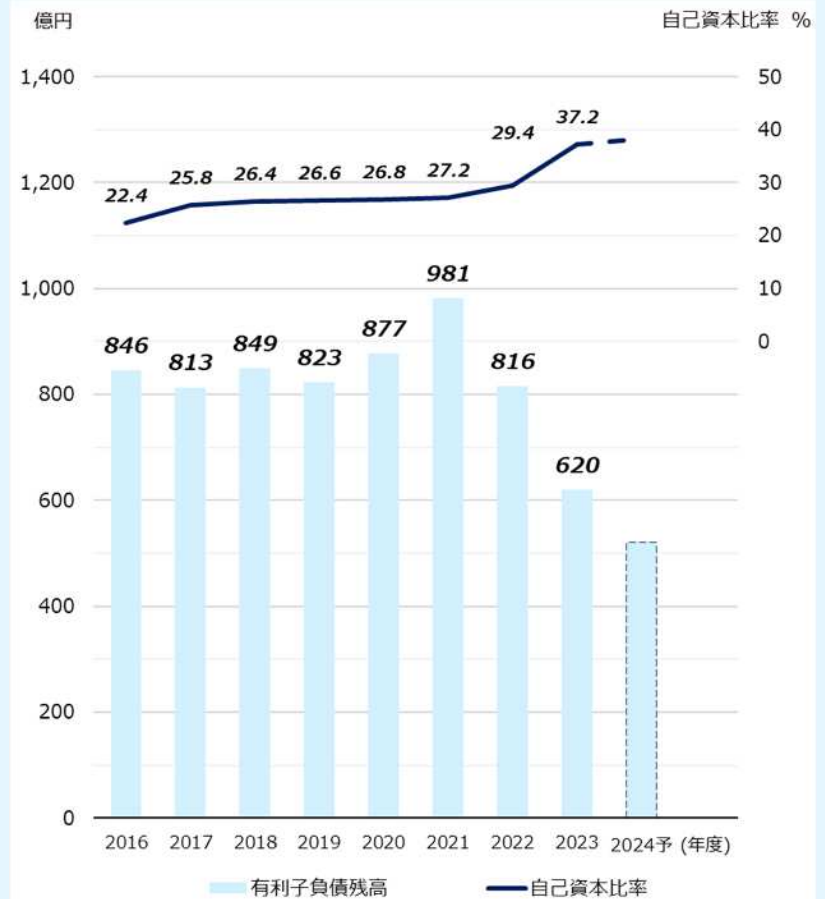
フリー・キャッシュ・フローの増加をはかる
 ①株主還元、②有利子負債返済、③成長投資
 (先行開発強化)に配分

①株主還元



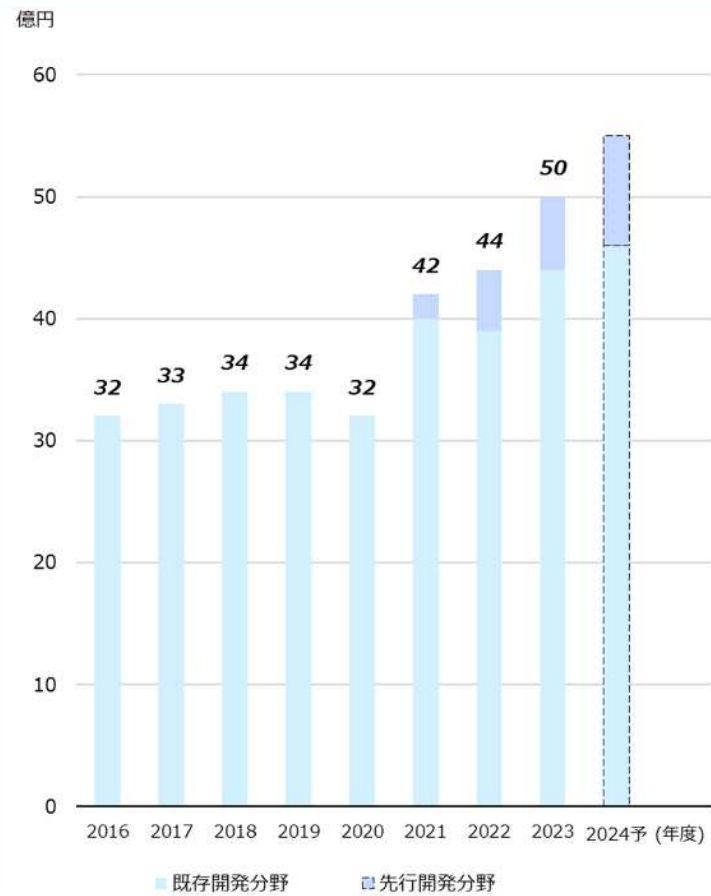
配当性向30%程度を目標と設定
配当額の維持・向上に努める

②有利子負債返済



グループ内の資金効率を高め有利子負債圧縮
自己資本比率は約40%

③成長投資（研究開発費）



実質売上高に対して1%程度の研究開発費を、
2~3%まで拡大
既存分野から先行分野・新規事業へシフト

PBR1倍の早期達成に向け、資本コストおよび株価を意識した経営を推進

- 資本収益性を高めるため、ROEの目標を10%以上と設定
- 地域ごとの目標管理活動を推進

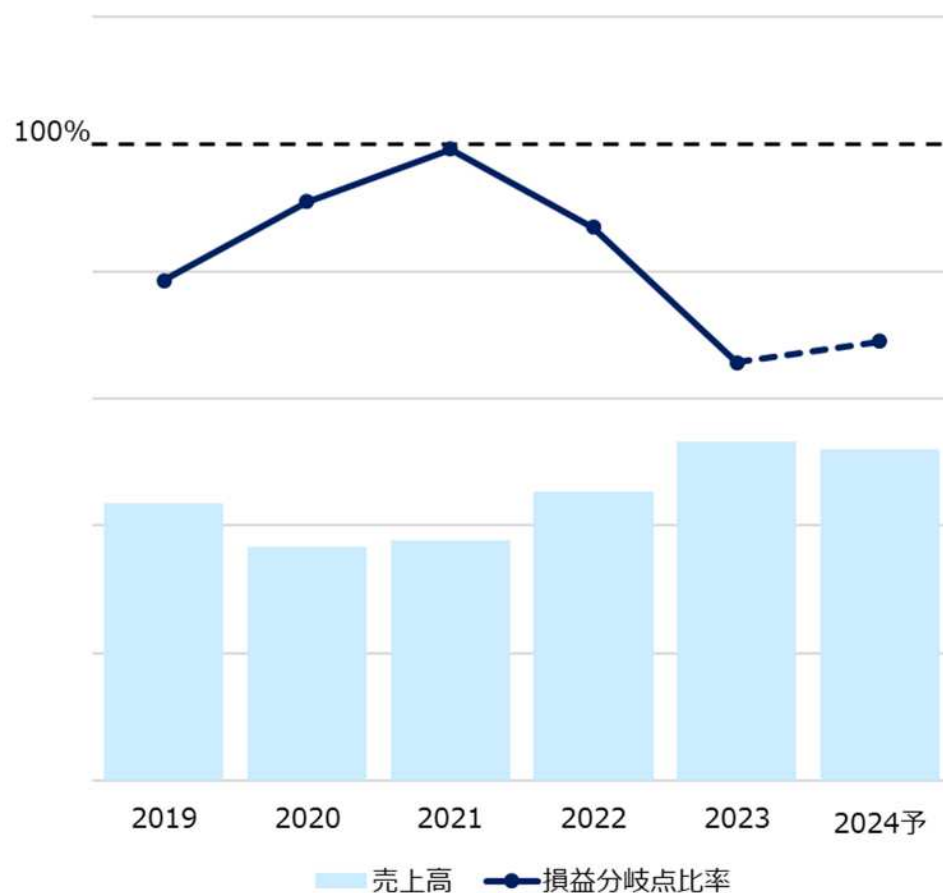
株価とPBR



純利益とROE



損益分岐点の改善（日本）



< 日常活動 >

- ・ 生産性向上
- ・ 品質向上（不良率改善）
- ・ 歩留り改善

< 特別活動 >

ベストプラクティス活動

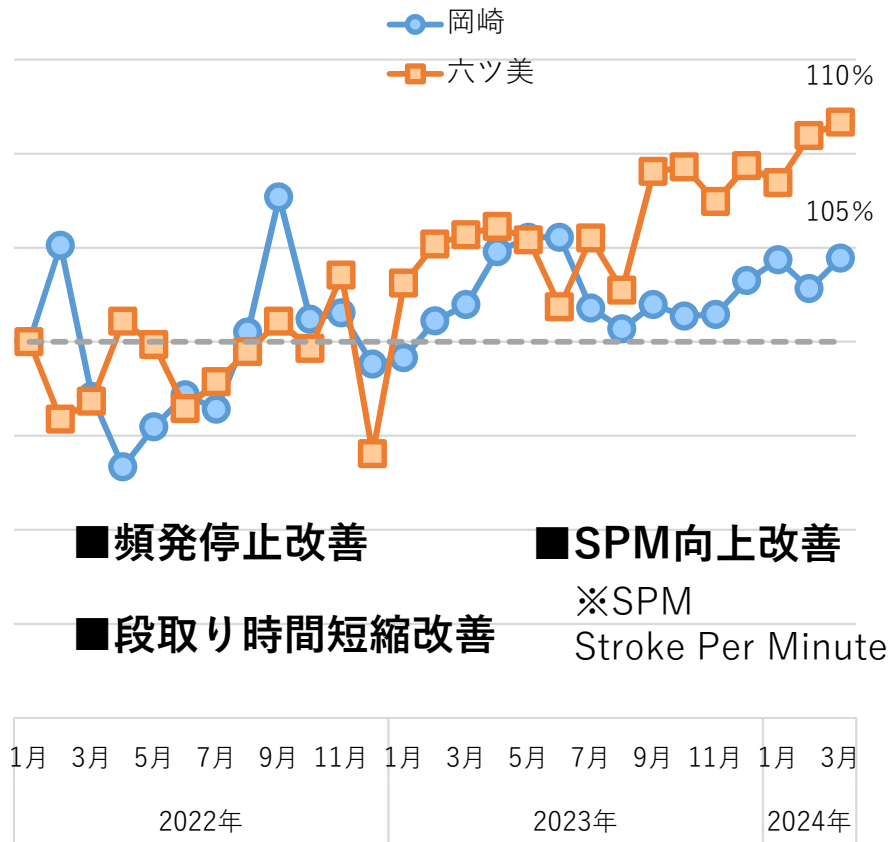
- ・ プレスの生産性向上
- ・ 生産ラインの寄せ止め
- ・ 内装部品の収益向上
- ・ 排気系部品の競争力強化

**業界ベストを出来高・品質で追求
素早くグローバルへ展開**

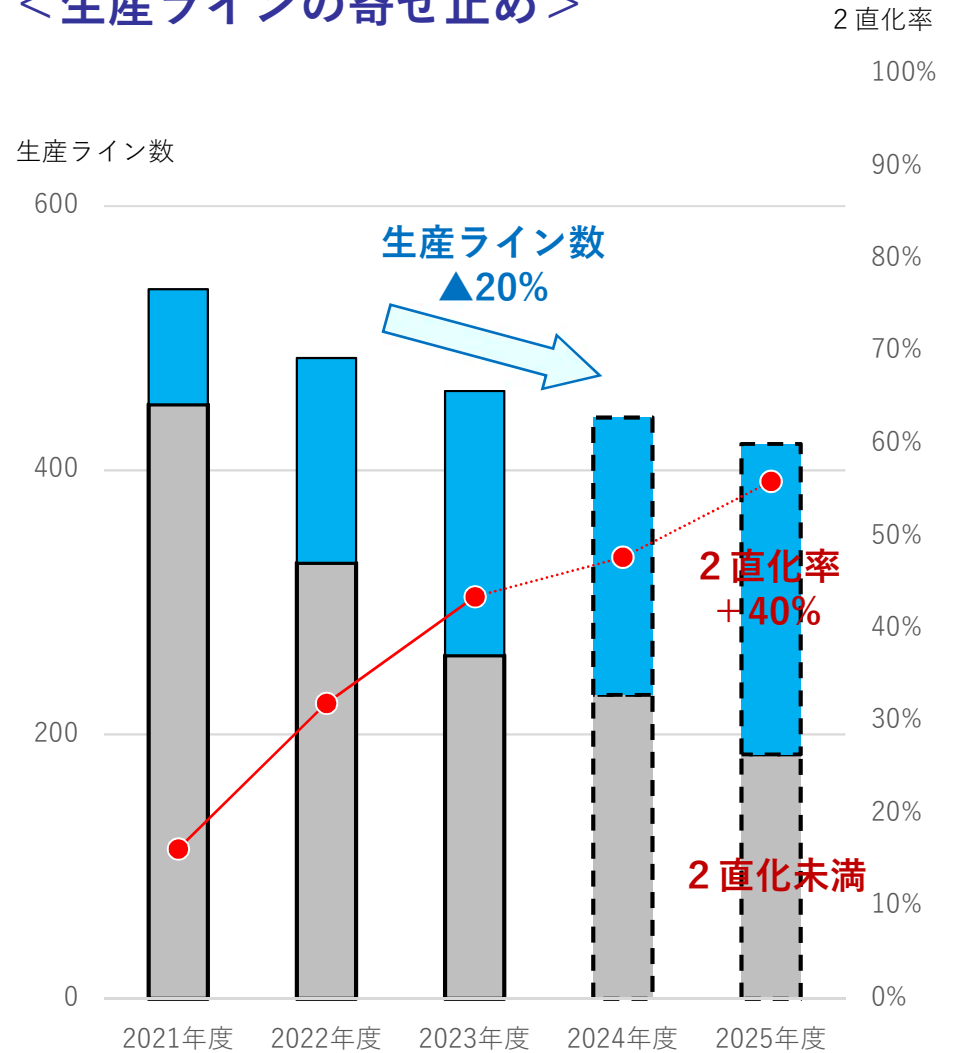
ベストプラクティス活動

<プレス生産性向上>

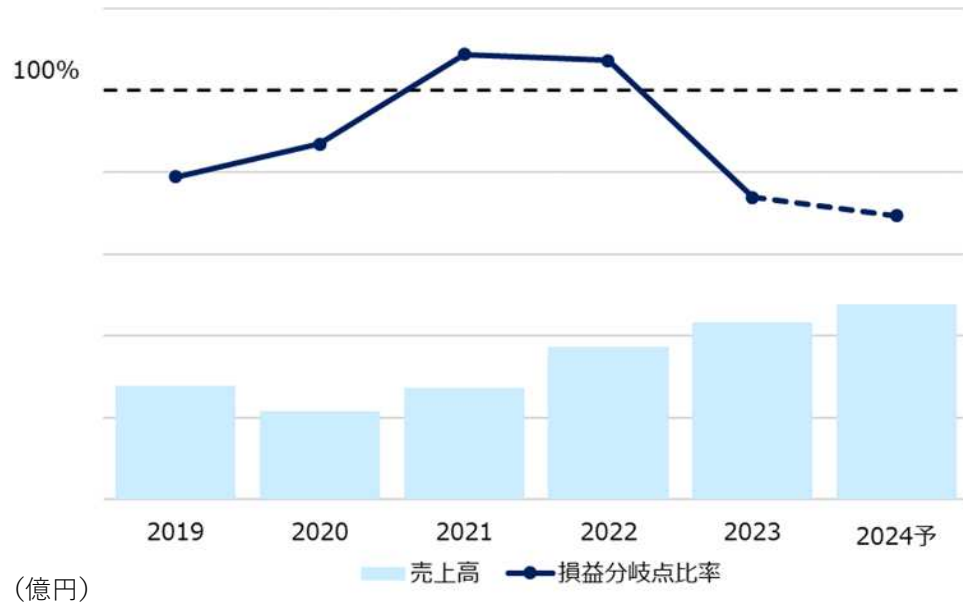
トランスファープレスの生産性向上
 岡崎 2,000t / 六ツ美 2,000t, 1,500t, 800t



<生産ラインの寄せ止め>



(北米) 現地トップマネジメントによる特別プロジェクト 損益分岐点の改善 (北米)



- 【目的】**
- 収益構造改革による **損益分岐点改善**
- 【戦略】**
- 収益構造の徹底分析
 - 全費目にわたる目標設定、改善活動

営業利益	16	9	▲ 6	▲ 7	34	41
------	----	---	-----	-----	----	----

営業赤字要因

- 経費増加 (インフレ)
- 償却費増加 (投資増)

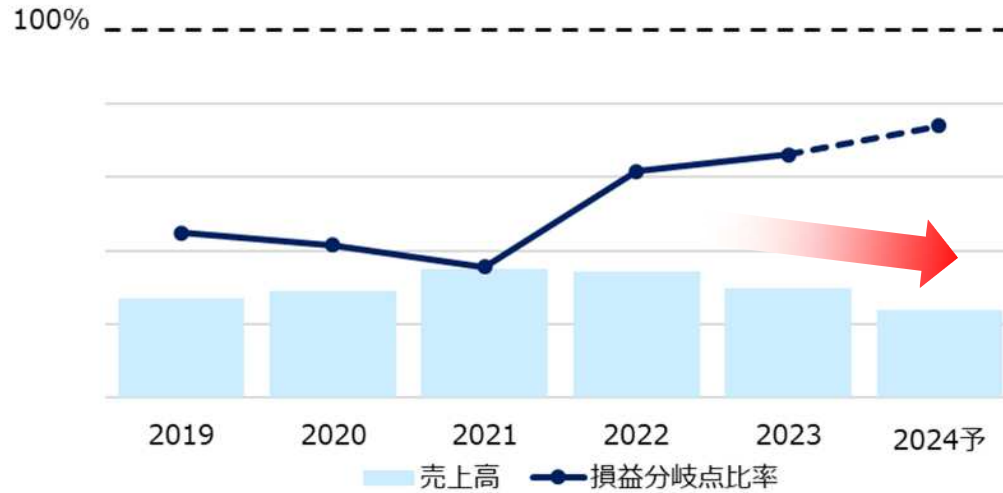
損益分岐点改善の取組み

- ベストプラクティス活動(日本の横展)
- 固定費増(インフレ)の適切な価格転嫁
- 現地調達化の更なる推進



プレス材料供給の自動化 (ベストプラクティス活動)

(中国) 新たな局面に向けた 生き残り戦略 損益分岐点の改善 (中国)



【背景】

- 中国系OEMの台頭により、日系OEMの販売が苦戦

⇒ 生産台数減少、更なる競争の激化

【戦略】

- 現地調達化の更なる促進
- 生産性向上
- ベストプラクティスの横展

【現地主導による取組み例】



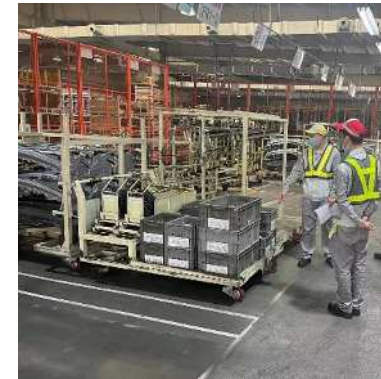
材料使用量の削減
(歩留り改善)



組立ラインの自動化
(ベストプラクティス活動)



物流効率の追求
(ベストプラクティス活動)



部品供給の自動化
(ベストプラクティス活動)

財務体質の健全化

企業競争力・体力の強化

リスクと機会

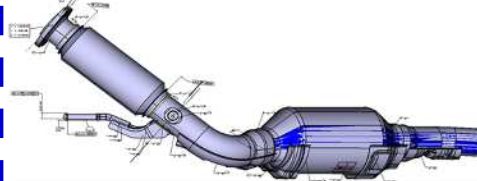
【開発プロセス変革の実施】

製品/設備/工場の3Dデータを活用し、デジタル空間上で開発するプロセスへの変革を進め、**開発リードタイムの半減**に向けて活動を実施

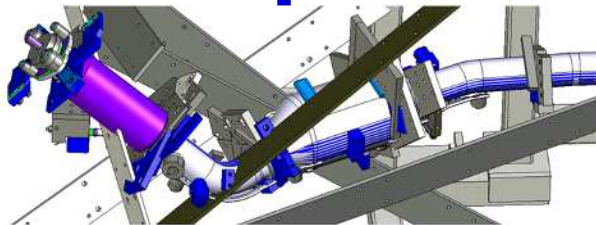
製品・設備の3Dデータ デジタルプラットフォーム



製造に必要な情報を3Dデータに付与



更に設備基準を付与

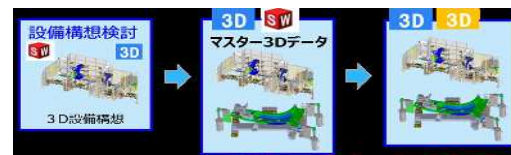


3Dデータ連携

生産工程を意識した製品設計
⇒ リードタイム短縮、工数/ロス削減



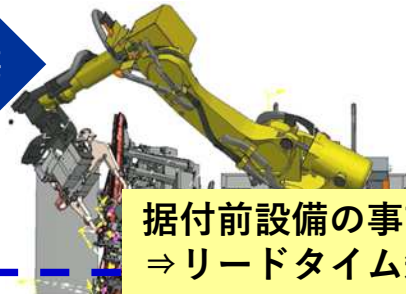
2Dで工程/設備計画



工程/設備構想から設計までを3Dで運用



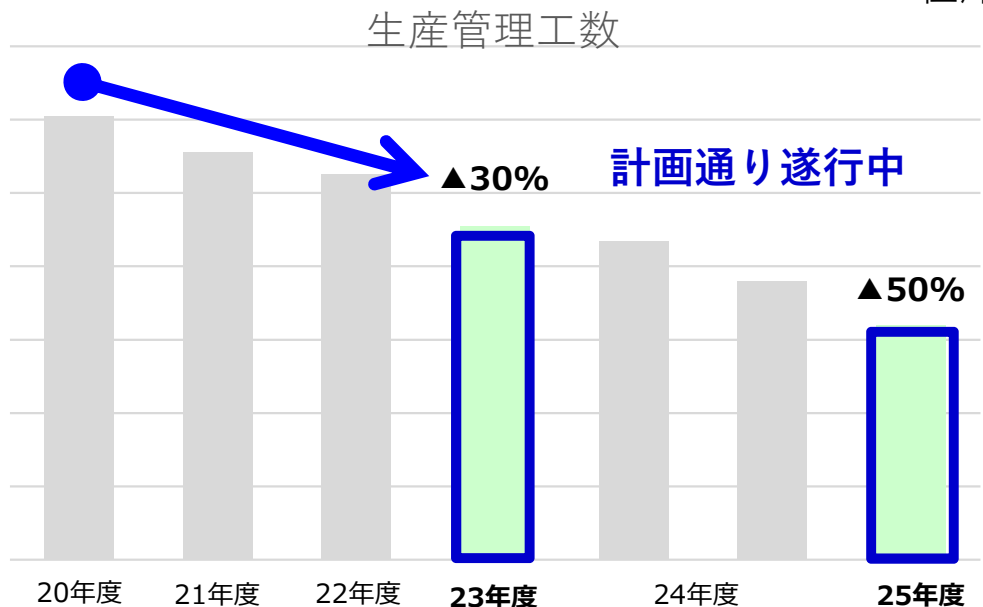
3D生産工程
シミュレーション



据付前設備の事前検証・完成度向上
⇒ リードタイム短縮、工数/ロス削減

【生産プロセス革新の実施】

Virtual One Factory の実現による **生産管理工数の半減** に向けた活動を実施



各工場の重複する業務を集約し
デジタル活用により効率化

↓

高付加価値業務へシフト

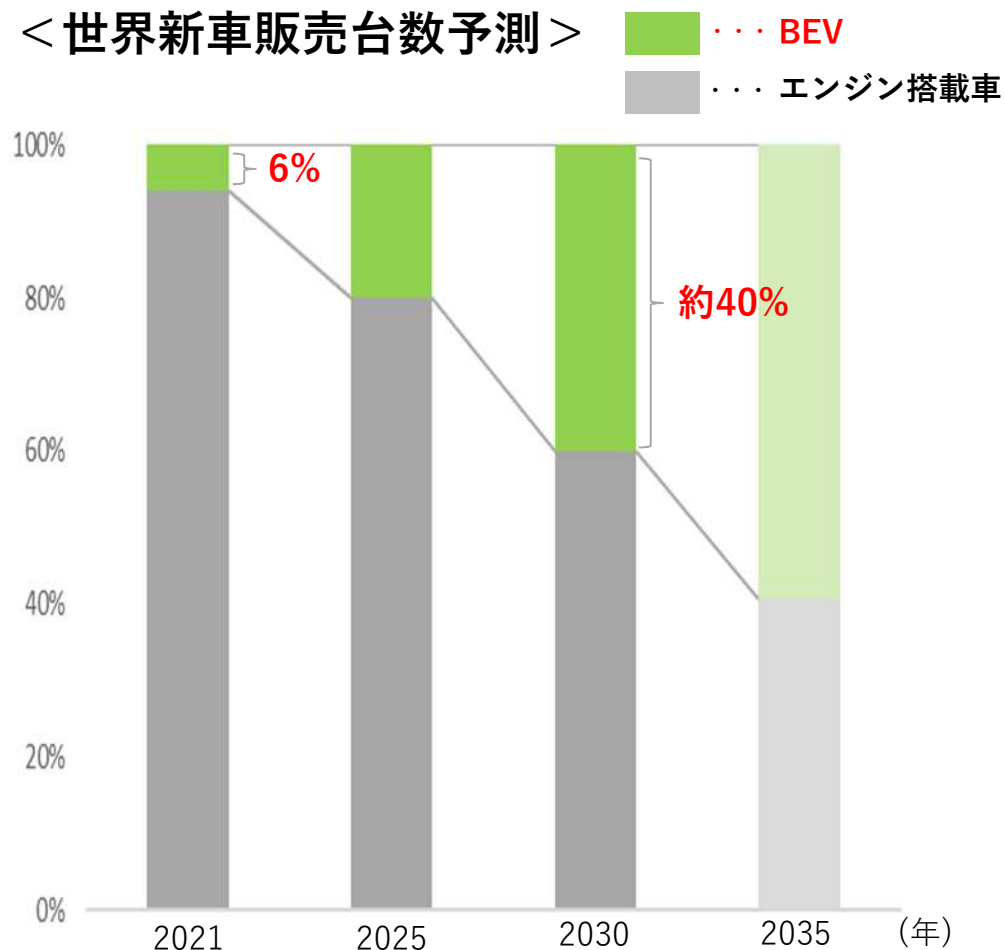
- ・ 中長期生産戦略
- ・ 画期的な物流改革

財務体質の健全化

企業競争力・体力の強化

リスクと機会

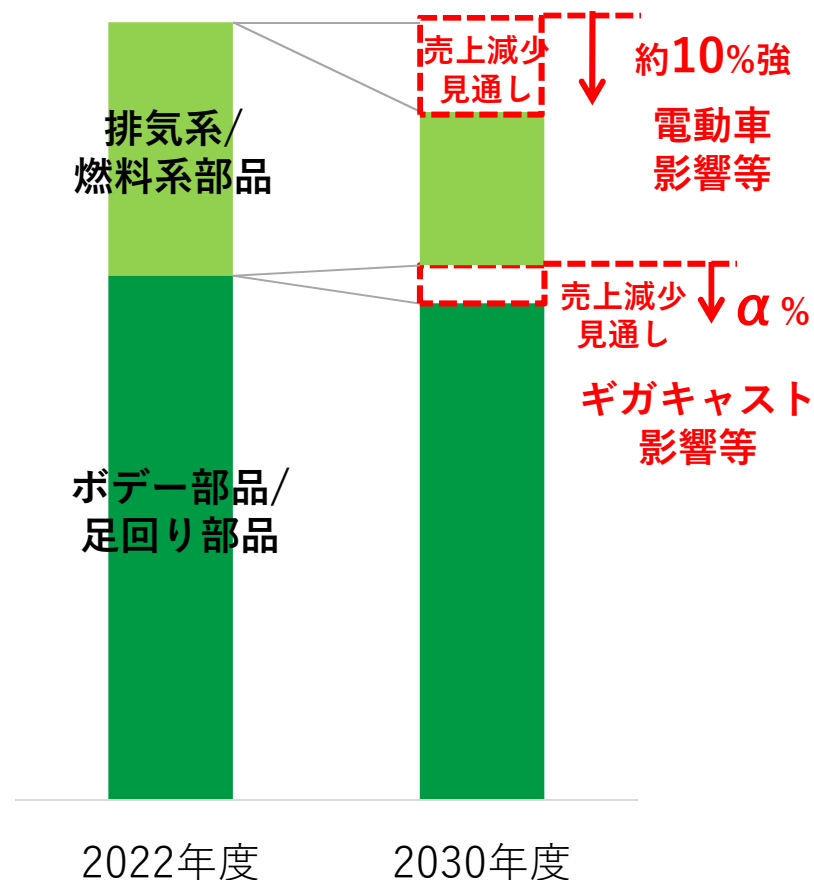
<世界新車販売台数予測>



出所: ポストン コンサルティング グループ分析
 「Electric Cars Are Finding Their Next Gear (2022年6月9日)」よりフタバ産業が作成

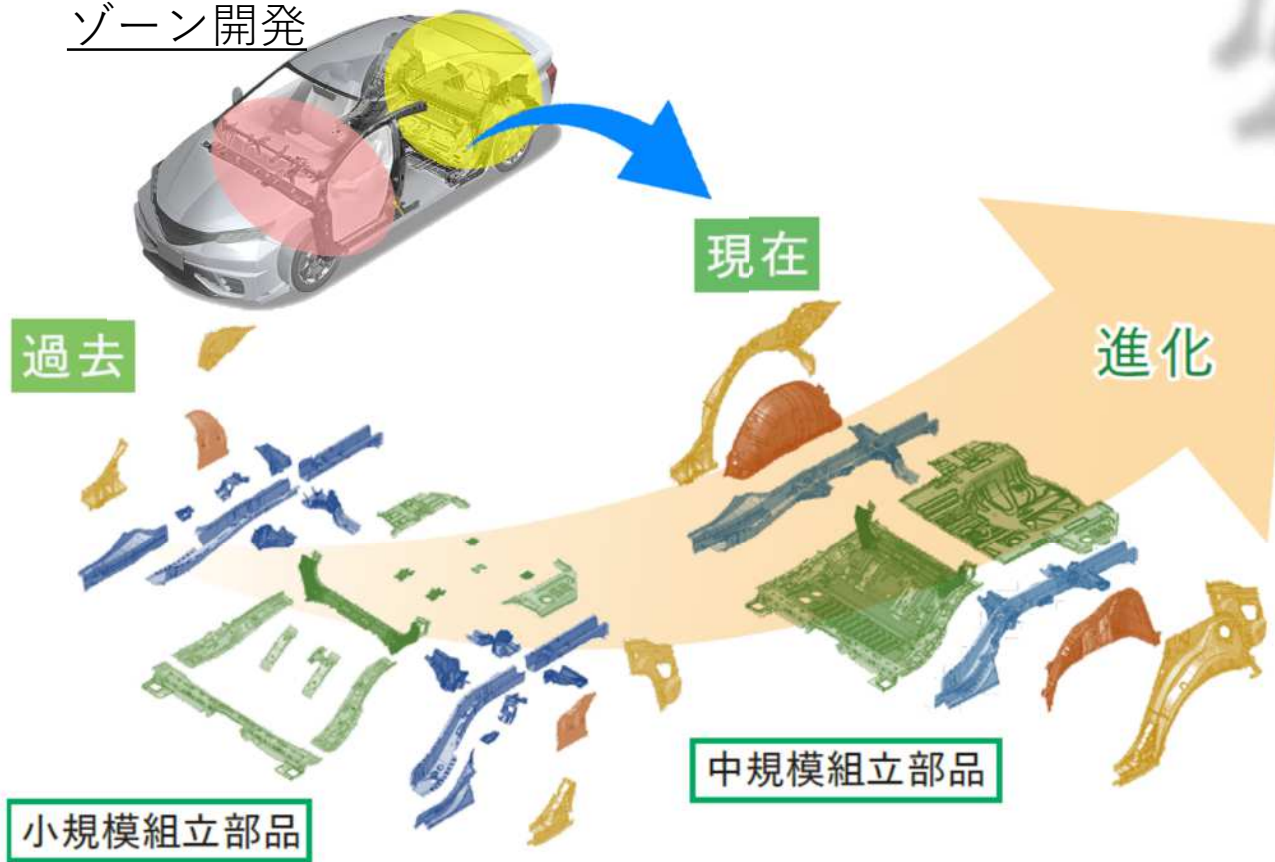
**エンジン搭載車が減少
BEV化が急速に拡大**

フタバ連結の売上影響予測 (自動車関連部品・支給品除く)



大型化、一体化検討

ゾーン開発



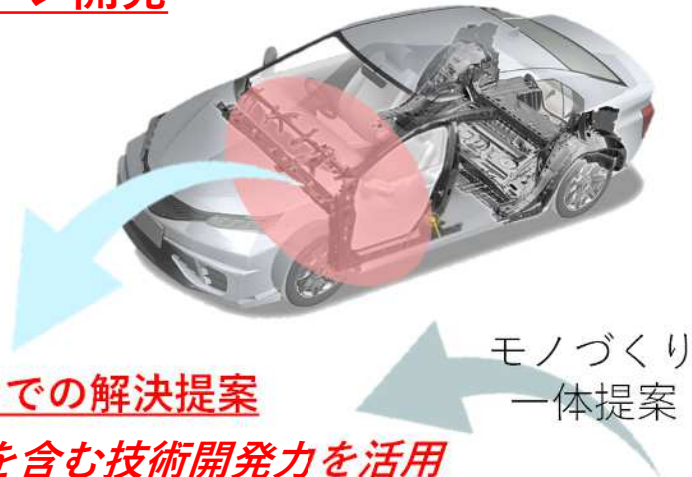
大型化、一体化へ チャレンジ!

将来



複雑・大型化する部品
モノづくり力（成型技術、接合技術）で 構造提案実施

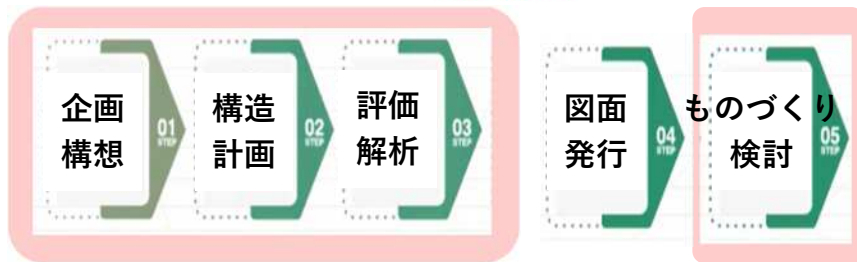
①ゾーン開発



ゾーンでの解決提案

CAEを含む技術開発力を活用

モノづくり
一体提案



新たな付加価値

従来の
付加価値



フタバの生産工程

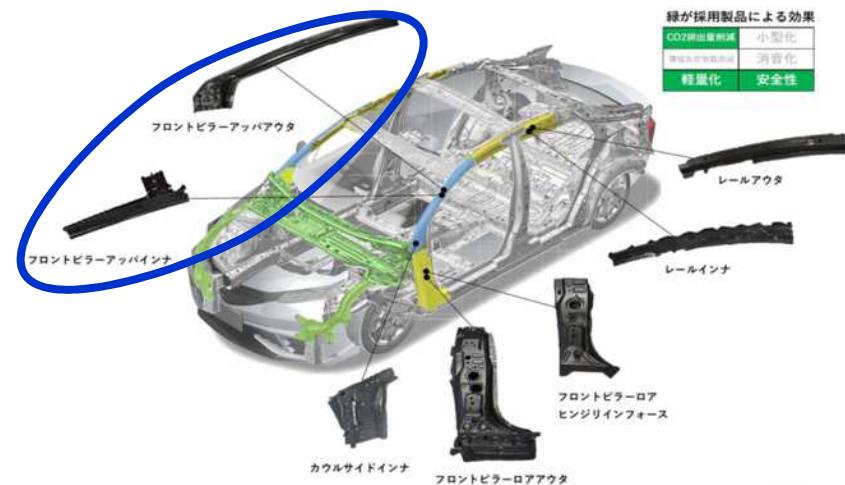
お客様の生産工程

②超ハイテン材化への対応

(クルマの軽量化に貢献)

超ハイテン材を始めとしたモノづくりと、性能(衝突)を両立させた積極的な構造提案を今後も推進

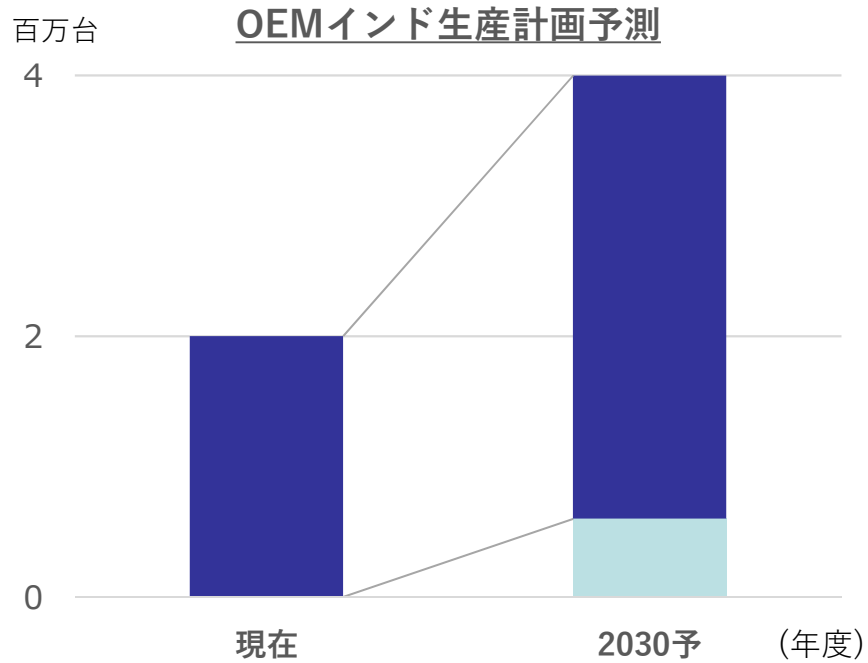
フロントピラー (冷間超ハイテン1470MPa)



緑が採用製品による効果	
CO2排出量削減	小型化
燃費効率向上	消費低減
軽量化	安全性

青色：1470MPa材、黄色：1180MPa材、緑色：その他主要ボデー部品

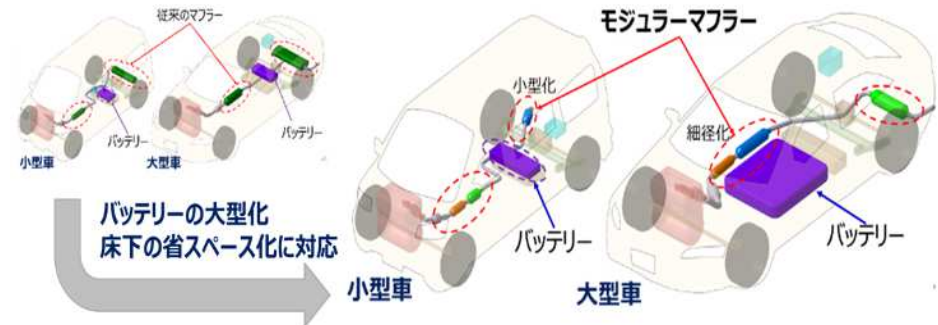
①インド OEM事業拡大による拡販



MARUTI SUZUKI Annual Integrated Report 2022-23
SUZUKI 2030年度に向けた成長戦略説明会より当社予測

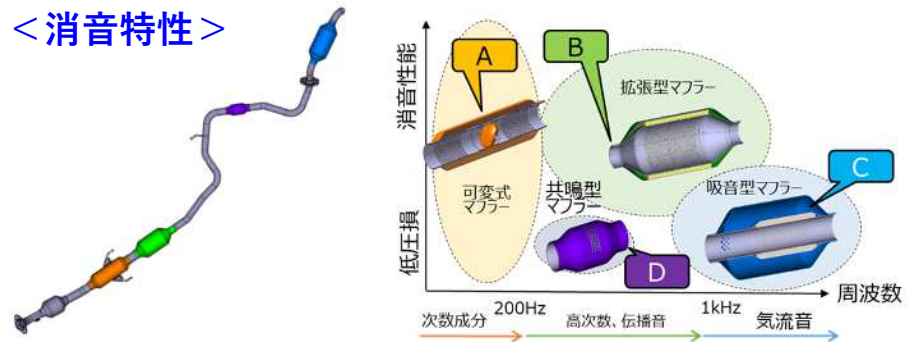
■ BEV ■ エンジン搭載車 (エンジン搭載車: ICE, CNG, HEV, PHEV)

②新開発製品 モジュラーマフラー



バッテリーの大型化
床下の省スペース化に対応

<消音特性>



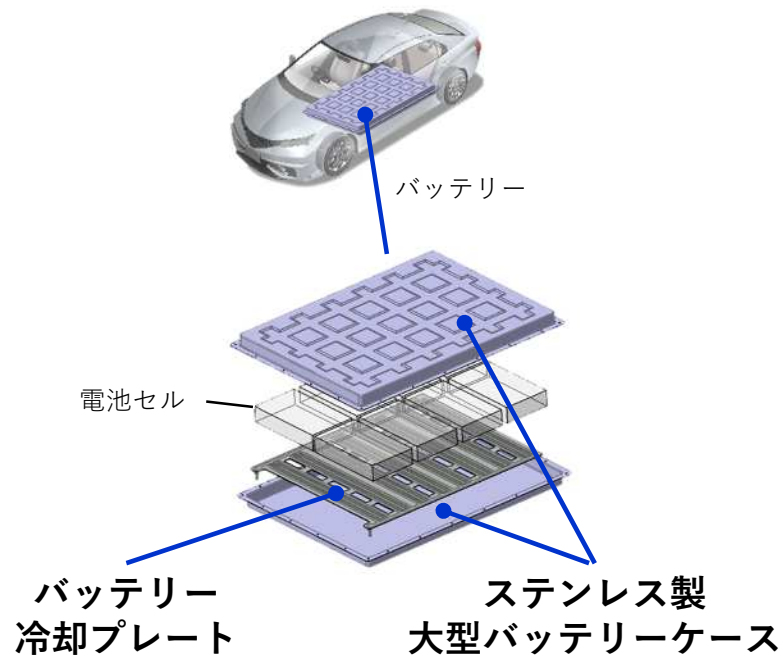
20%以上の軽量化、20%以上のマフラー容量低減

インド現地化推進専門チームを立ち上げ
これまで以上にお客様ニーズに素早く対応

新規モデルの排気システムを受注推進

モジュラーマフラーに代表される新開発
製品を使い、得意とするエンジン機能製品
(排気管・エキゾーストマニホールド
・キャニスター)のシェア向上を図る

①BEV用製品開発



熱マネ・レーザー溶接・ステンレス成形といった得意技術を活用し、BEV用製品の開発を推進

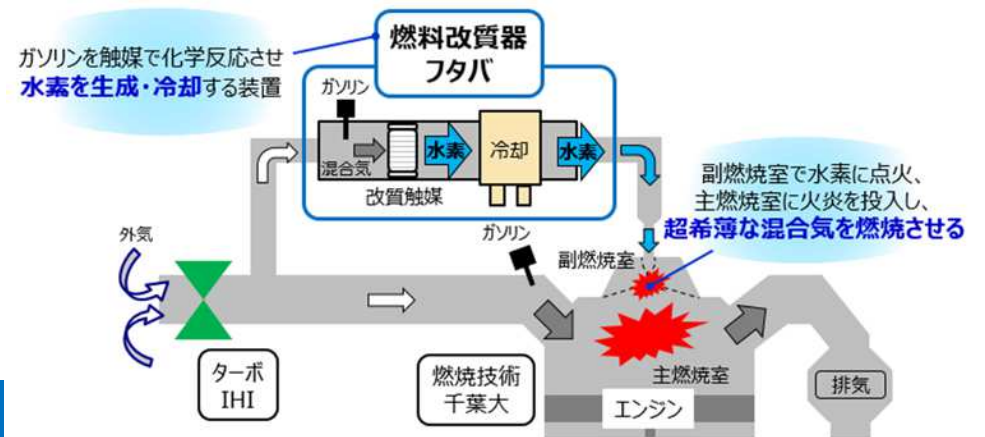


2027年以降の採用を目指しOEMに提案中

②HV用水素活用技術開発

千葉大、IHI と共に開発中

燃料改質器にて生成した水素をエンジンの着火源に活用することで、エンジンの超希薄燃焼を実現し、CO2排出量30%低減を狙う。



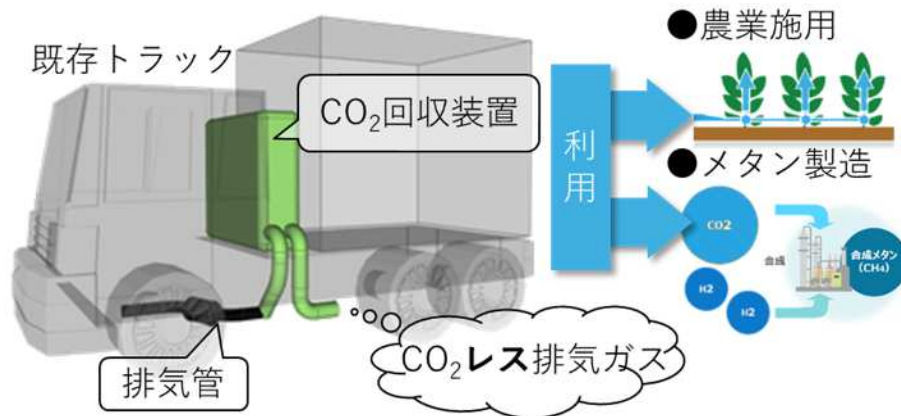
次世代エネルギーの一つである水素を活用して、既販エンジン車のCO2削減を目指した技術開発を推進

①物流トラックのCO₂回収事業

物流業界の脱炭素達成に貢献することで、地球環境維持と人々の豊かな生活の両立を目指す

<事業概要>

走行時に排出されるCO₂を分離回収するシステム
既存車への改修・搭載の為、持続使用が可能



<共創型事業開発>

パートナーと自社の強みを活かした仮説検証推進
 回収材料開発：東京大学
 実車実証検討：SBSホールディングス社
 システム開発：自社知見の活用

<事業提供価値>

地球環境維持への貢献

温暖化ガスCO₂の排出量削減
 既存車の持続使用による省資源化
 CO₂の有効利用による再資源化

生活者の豊かな生活への貢献

配達利便性の存続
 CO₂再資源化で環境貢献を実感

<開発進捗>

2024年2月 公道実験走行実施

CO₂排出 **ゼロ** で公道 **10 km** 走行達成



<使用車両>



<装置搭載状態>

<推進日程>

項目	2022	2023	2024	2025	2026	2027
実施事項			事業開発 FS(事業性確認)	商品開発		リリース

②レーザー除草機

「みどりの食料システム戦略」（農林水産省策定）
<2050年までに目指す姿>

1. 化学農薬の使用量を50%低減
2. 有機農業の取組面積を25%、100万haに拡大

有機農業の普及に貢献

人や農薬に頼らない除草の実現を目指す

<開発状況>

雑草へのレーザー照射、自律走行の実証を開始



<産学官連携強化>



2023年度 新あいち創造研究開発テーマに採択

取組み

要素技術
開発

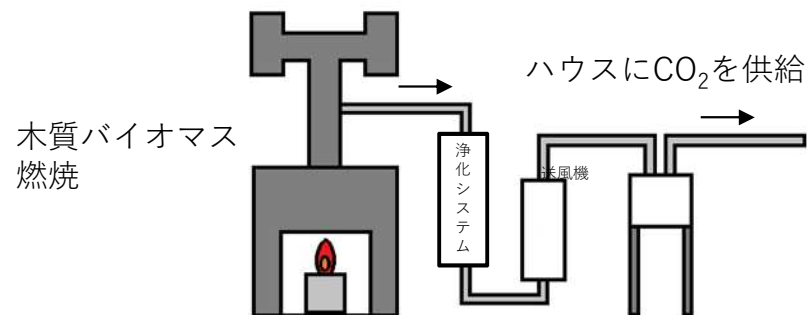
システム
設計

試作品
製作

農場
実証

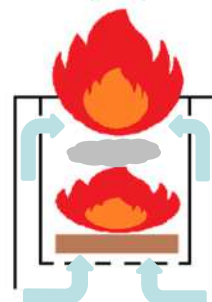
③木質バイオマス燃焼式 光合成促進システム

木質バイオマスを活用した、灯油燃焼式に代わる
カーボンニュートラルなCO₂施用機を開発



<開発のポイント>

- ①強化型二次燃焼システムにより、有害成分を大幅に低減
- ②更に浄化システムで排ガス中のススや有害成分を取り除く



<今後の活動>

安全性評価、栽培実証を公的研究機関で検証し、
早期実用化を目指す。

3つの分野で社会に価値を提供する製品・サービスを、
 たくさんのステークホルダーにお届けしてまいります

「環境」 自然環境への負荷を低減する排気系部品

「安心」 人を危険から守り、安心できるボデー・内装部品

「豊かな生活」 生活品質を高める製品・サービス(アグリーフ、新規事業)

私たちは“Create Beyond” (あらゆる期待を超える) を合言葉に、
 製品を納めるお客様はもちろん、実際に製品を使われるエンドユーザーの期待
 と満足を超えた喜びと感動を思い描きながら、これからも「環境」「安心」
 「豊かな生活」の3分野で社会に価値を提供する製品・サービスを、たくさん
 のステークホルダーにお届けしてまいります

フタバに関するステークホルダー

社員
家族

お客様

仕入先

株主

投資家

地域
社会

エンド
ユーザー

FUTABA

フタバ産業株式会社

<https://www.futabasangyo.com/>

【注意事項】

本資料に記載される当社（連結子会社を含む）の見通し等は、当社が現在入手している情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従って、これらの業績予想等のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い申し上げます。

実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社、連結子会社および持分法適用会社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

本資料に掲載のあらゆる情報はフタバ産業株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに、複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、一部の数値を億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。